

平成27年度

事業報告書

公益財団法人新潟県都市緑花センター

目 次

1 公益目的事業

- (1) 都市空間における緑花増進事業（普及啓発、調査研究）
- (2) 公園緑地の利活用促進と植物に関する知識の普及と理解の増進事業
 - ① 鳥屋野潟公園（新潟県スポーツ公園）、大潟水と森公園の利活用の促進事業
 - ② 植物園における植物に関する知識の普及と理解の増進事業

2 収益等事業

- (1) 公園施設等付帯収益事業
- (2) 野球場施設付帯収益事業
- (3) 書籍の販売、発行
- (4) スタジアム・野球場施設貸出事業

1 公益目的事業

(1) 都市空間における緑花増進事業（普及啓発、調査研究）

緑や花に関する普及啓発活動、調査研究事業を行うことで都市空間に潤いをもたらす緑の重要性を県民に認識してもらい、緑豊かな町づくりを進めていくことを目的とする。

① 都市緑花の普及啓発事業

(ア) 県民の緑化活動支援事業

(a) 花と緑のパートナーづくり事業

子どもたちや地域住民が行う緑化事業を支援することによって都市緑化の意識啓発及び公共施設等の緑化を促進するため、都市部や主要な観光地の県管理施設や市町村管理の小中学校におけるボランティア団体、民間団体や学校等が実施する緑化活動に対して助成を行った。

・平成27年度助成団体：3団体 助成額：1,040千円（樹木153本）

(b) 花と緑のアドバイザー派遣事業

花と緑のアドバイザーを各種開催団体が実施する緑化講演会、緑化研修会等に派遣するとともに、センターが公園をフィールドに企画する自然観察会、新潟日報カルチャースクールとの提携講座等においても積極的に活用を図った。

・平成27年度アドバイザー活用回数：177回

【内訳】団体からの申請による派遣：48回 金額：715千円

センター等における活用：33回

新潟日報カルチャースクールにおける活用：84回

その他講師紹介：1団体 12回

(イ) 緑化の普及に関するコンテスト実施事業

(a) 写真コンテスト開催事業

新潟県内の国営、県立都市公園の魅力的な風景、まちなかの緑や花を題材とした写真を広く募集し、公園に対する愛着や親しみ、まちなかの緑に対して意識してもらい、公園利用の促進や緑化の普及啓発に寄与することを目的にコンテストを開催した。また、入賞作品は、フラワーウェーブ会場（新潟日報メディアシップ）及び新潟県立植物園に展示した。4月以降も県庁18階展望ギャラリー、大潟水と森公園、新潟県スポーツ公園、紫雲寺記念公園（紫雲の郷）等において、巡回展示を行う予定である。

・募集期間：平成27年12月1日～平成28年1月29日

・応募総数：342点（都市公園部門125点、まちなかの緑花部門166点、モバイル・デジタル部門51点）

(ウ) 広報事業

花と緑の情報誌グリーンスケッチを年4回発行し（うち夏号・冬号はデジタル版のみ）、県内の団体が行った緑化活動等を取り上げたほか、花や緑に関する催し物の情報を掲載した。また、イベント等にブース出展し、花や緑に関する体験教室を行いながら、センター及び緑化のPR活動を行った。

(エ) 緑化イベントの開催業務

第28回新潟県都市緑花フェアに共催したほか、フラワーウェーブ新潟2016実行委員会に参画した。センターが行う新潟県スポーツ公園フェスタ、デンカビッグスワン新春フェスタにブースを出展し、植物を素材とした体験教室を行った。また、にいつ花ふるフェスタに協賛してブースを出展し、センターのPR活動及び植物を素材とした体験教室を行った。

② 調査研究事業

(ア) 都市空間における緑の量と質に関する調査研究

「新潟街路樹指針」の策定及び「街路樹のあり方シンポジウム」の開催に向けた情報収集業務の一つとして、新潟市（中央区・江南区）が管理する2路線14本の街路樹で生育調査（基盤調査・追跡調査・試験施工）を行った。

また、国土交通省国土技術政策総合研究所緑化生態研究所から講師の派遣を受け、新潟県立植物園で樹木の腐朽診断機による実演調査を行った。

同調査研究事業の一環として、以下の路線についての健全度調査等を受託した。

(a) 新潟市道平島小針線他街路樹健全度調査業務

委託者：新潟市（西区）

(b) 新潟県道塩沢中通線（牧之通り）街路樹調査業務委託

委託者：新潟県南魚沼地域振興局

③ 芝生研究所

(ア) 芝生地に関する調査研究

新潟県スポーツ公園の多目的運動広場（南エリア）において、利用過多によりノシバの生育が不良となり雑草の混入が見られる箇所にティフトンを植栽し、その後の経過を調査した。

(イ) 校庭芝生化の普及事業

新潟市が平成27年度に芝生化した太夫浜小学校への技術指導を実施した。

保育園、幼稚園を対象とした園庭芝生化については、新潟市の1園について新規モデル園として芝生化を実施し、追跡調査をおこなった。前年度以前に芝生化を行った

保育園、幼稚園についても追跡調査をおこなった。

当センターと同様に校庭芝生化を進めている静岡県芝草研究所と情報交換を行い、同芝草研究所の案内で静岡県磐田市の小学校および保育園の視察を行った。

新規芝生化園

園名	対象面積	市町村	植栽日
スマイルはじめ保育園	480 m ²	新潟市	9月16日(水)

(2) 公園緑地の利活用促進と植物に関する知識の普及と理解の増進事業

より多くの人々が満足できる適切な公園管理を企画・実施するとともにアンケート調査等を通して、利用者ニーズを把握し、より一層県民に親しまれる公園となるよう、行政と利用者をつなぐ役割を担うことを目的とする。

① 鳥屋野潟公園（新潟県スポーツ公園）、大潟水と森公園の利活用の促進事業

(ア) 各種イベント等の開催

県民に愛される公園を目指し、多くの方に公園に来て楽しんでもらう事を目的とし、季節ごとにイベント等を開催し、地域の活性化や公園の魅力の発信を行った。

【鳥屋野潟公園】

4月26日	3時間ファンランリレーフェス（新潟スタジアム）	500人
5月3日	芝生を思い切り楽しもう（新潟スタジアム）	300人
5月17日	はな＊はなフェスタ in 新潟県スポーツ公園（園地）	1,700人
8月1日	新潟県スポーツ公園フェスタ2015	25,000人
8月6～17日	肉フェスNIIIGATA2015夏（園地）	173,000人
8月9日	スタジアムから花火をみよう（新潟スタジアム）	600人
9月2、3、9日	平成27年度秋季市長杯兼エコスタ杯争奪軟式野球大会（野球場）	180人
10月3日	デンカビッグスワンカップリレー（新潟スタジアム）	6チーム
10月18日	はな＊はなフェスタ in 新潟県スポーツ公園（園地）	500人
12月27日	小学生ベースボールクリニック2015（野球場）	300人
1月11日	新春フェスタ2016（新潟スタジアム）	5,000人

【大潟水と森公園】

4月19日 さくらまつり

5月5日	こどもの日まつり
6月1日	トレイルランナーズカップ
6月27日～7月7日	あじさい・七夕まつり
10月10日～10月12日	3しょくフェスタ

(イ) スポーツを通じた公園の利活用促進業務

競技者の技能向上の機会を提供するとともに、スポーツ競技の普及を図ることにより県民の余暇活用の支援と健康増進に寄与することを目的とし、各種講習会、スポーツ教室を開催した。

【鳥屋野潟公園】

スポーツ公園でエクササイズ（園地）	43回
ノルディックウォーク教室（園地）	7回
野球教室（野球場）	119回
ヨガ教室（野球場）	12回

(ウ) 公園を活用した教室、観察会の開催

鳥屋野潟公園では「鳥屋野潟」、大潟水と森公園では潟周辺の豊かな自然、植物に触れ、学ぶ機会をつくるため、また、公園が交流の場となるように各種教室を開催した。

【鳥屋野潟公園】

各種教室開催	71回
主な教室	
野鳥観察会	3回、鳥屋野潟でネイチャーゲームを楽しもう 7回
ハーブ教室	4回

【大潟水と森公園】

- ・よろず塾 83回
健康づくり教室、園内の植物調査、絵本読み聞かせ など
- ・潟来さんぽ 24回
園内の自然観察会 など

(エ) 公園を活用した地域コミュニティの形成

公園が地域住民や利用者同志の連携活動の場となるよう、お互いの理解を深め、協力・連携し、各種活動を行う。

【鳥屋野潟公園】

- ・公園サポーター活動 52回
- ・地域団体との連携活動 4回 ながたの森を愛する会

【大潟水と森公園】

- ・公園サポーター活動 79回

(オ) 高品質なスポーツターフの提供

- ・芝生保護技術

特許の取得 「芝生保護用マットとこれを用いた保護構造」

平成25年11月8日特許庁の登録原簿登録

特許技術の活用

芝生保護用マット敷設指導等業務・・・宮城スタジアム、豊田スタジアム 他

(カ) 大規模施設の有効活用事業

新潟スタジアム 744,623人

【主な利用】

- | | | |
|-------------------------------------|-----------|----------|
| ・Jリーグ | 22試合 | 414,191人 |
| ・日本陸上選手権 | 6月26日～28日 | 45,000人 |
| ・「Mr.Children Stadium TOUR 2015 未完」 | 8月8日 | 41,891人 |

野球場 253,190人

【主な利用】

- | | | |
|----------------------------|----------------|---------|
| ・プロ野球公式戦 | 5月9,10日 横浜vs巨人 | 45,563人 |
| ・北信越BCリーグ | 9試合 | 15,726人 |
| ・高校野球 | | 50,114人 |
| ・「音楽と髭達2015 MUSIC STADIUM」 | 8月29日 | 13,990人 |

② 植物園における植物に関する知識の普及と理解の増進事業

(ア) 植物園の魅力を増進させる事業

(a) 植物コレクションの充実

新潟県の園芸に縁の深い雪割草やツツジ類、日本海型植物であるユキツバキ、水生植物を中心に、日本では貴重な熱帯植物や日本の野生植物を収集した。

- ・収集植物 320種

(b) 植栽の充実

新潟の絶滅危惧植物を含む自生植物の植栽、サクラ並木、ハーブ等を植栽し、園地の充実を図った。またシャクナゲ園の植栽計画を立案した。熱帯ドーム温室では、園内に植栽される植物に近縁の熱帯植物や観賞価値の高いイワタバコ科の植物を展示した。観賞だけではなく、保全、研究材料として利用し、新潟県の財産として保存を行った。

(イ) 植物に関する普及啓発事業

(a) 温室内展示の充実

観賞第2温室の企画展示

期間	企画展名
(3月11日)～4月6日	にいがたの花 チューリップ展
4月8日～5月31日	にいがたの花 シャクナゲ・ツツジ展
6月3日～7月20日	絶滅危惧植物展～いのちをつなぐ～
7月23日～9月6日	食虫植物展～葉のかたち・葉のちから～
9月9日～11月15日	ハーブ展～くらしの中のハーブ～(1部、2部)
11月18日～12月26日	クリスマス展～植物園のガーデンクリスマス～
1月4日～2月1日	新潟の古典園芸植物展・植物と冬のしごと展
2月4日～3月8日	にいがたの花 アザレア展
3月10日～3月31日	にいがたの花 チューリップ展

(b) 花と緑の教室開催事業

花と緑の教室 52回

主な教室

- ・植物園花散歩 11回
- ・マツの剪定、食虫植物を育ててみよう、寄せ植え教室、にいがた花めぐり（見附市イングリッシュガーデン）など

(c) 園芸相談受付業務

植物の育て方についての相談を受ける窓口として「花と緑の相談コーナー」を開設した。

- ・専任相談員による相談所の開設 104回
- ・相談件数 360件

(d) 学校教育等の支援

- ・出張講習 42回 小学校総合学習、農業大学校、中・高年大学 など

- ・博物館実習 3大学 4名
- ・インターンシップ 2高等学校 11名、2大学 2名

(ウ) 貴重な植物の保全事業

(a) 県内外絶滅危惧植物の収集及び域外保全の実施

現在環境省のレッドデータブックに掲載されている植物をこれまで約120種以上収集し、日本植物園協会の植物多様性保全拠点園として「生息域外保全」を行っている。引き続き全国の植物園や市民団体、研究機関などと協力し、自然環境の保全に努めた。

- ・絶滅危惧植物 20種収集
- ・湿地環境の植生と湿生植物の保全に関する研究
- ・オキナグサ、アズマシャクナゲの保全に関する調査研究
- ・野生絶滅コシガヤホシクサ保全への協力

(b) 地域保全団体への協力、指導

- ・新潟大学との湿地環境再生に関する調査・研究
- ・佐潟における植生調査等の協力
- ・魚沼市自然環境保全調査員として地域の保全に協力
- ・魚沼市の植物相の解明、同市に自生する絶滅危惧種オキナグサの保全に関する調査研究
- ・ベルギー、イタリア研究者による花き園芸振興を目指した国際セミナーの開催

(c) 新潟県作出の園芸植物の栽培保全

花卉栽培の長い歴史を誇る新潟県で作出されたボタンやアザレアなどの絶滅危惧園芸植物を収集し、新潟の園芸文化を守る保全施設としての役割を果たしている。

- ・新潟県園芸研究センターが品種改良を行っているアザレアについて交配、選抜等に協力。
- ・日本代表するツツジ、江戸キリシマ系ツツジの起源に関する調査を島根大学と共同で実施。
- ・園芸植物の保全事業を全国規模で展開（日本植物園協会 ナショナルコレクション委員会の発足）
- ・農林水産省保有ツツジ属植物のサブバンク化へ協力

(エ) 植物に関する調査研究事業

(a) 新潟県の園芸史調査（チューリップ、アザレア、ボタン、ボケ）

日本一の花木産地である新潟県の江戸時代から続く花卉園芸の歴史を解明する為の調査を行った。

- ・園芸関係 60点 資料収集

(b) 熱帯植物生態の調査研究（ヒスイカズラ、オオオニバス）

日本に導入され、栽培されている熱帯植物の中には、生態がよく解明されておらず、栽培においても技術が確立していないものがある。調査を基に、より多くの植物で、より多く開花結実できるように栽培管理し、来園者が本物を直に観賞できる環境づくりを構築した。

(オ) 産業振興、地域振興への貢献

新潟県や新潟市、その他近隣施設、花卉に関する各種協会、団体が主催するイベントと連携することで、新潟の花卉園芸の振興へ貢献した。

- ・春の大ツバキ展の開催（4月3日～5日）新潟県花つばき協会と共催
- ・「にいつ花ふるフェスタ」の開催（6月7日）
- ・食と花の世界フォーラムにいがたとの連携による花壇への夏咲き植物の植栽試験

(カ) 植物に関する情報の提供

上記の活動を、温室内の展示、講演、新聞及びホームページなどを使い広く公開し、県民に植物についての情報を提供した。

- ・印刷物の発行
 - お散歩マップ 6回発行
 - 植物園だより 4回発行
 - 各企画展等チラシ
- ・インターネットを活用した情報提供
 - ホームページ
 - SNSを活用した情報提供
- ・マスメディアへの広報活動

2 収益事業

(1) 公園施設等付帯収益事業

公園及び付帯する施設の利用者への利便を図ることを目的として次の事業を行った。

- ① レストラン運営
- ② 売店運営
- ③ 自動販売機運営
- ④ 公衆電話設置事業運営

(2) 野球場施設付帯収益事業

野球興業の補助を行うことで、興行主との良好な関係を築いて、継続的な興業を促進することを目的として次の事業を行った。

- ①プロ野球興業運営補助事業
チケット販売の代理店業務

(3) 書籍の販売、発行

より植物に親しんでもらうために書籍の発行を行った。

- ①植物に関する書籍の発行・販売

(4) スタジアム・野球場施設貸出事業

- ①スタジアム・野球場会議室貸出事業

各施設の有効活用を図るため、施設内会議室の貸出を行った。

- ②スタジアム・野球場諸室貸出事業

各施設の有効活用を図るため、展示会、即売会などに施設内スペースの貸出を行った。